

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

私は、自然に恵まれた壮瞥町で生まれ育ち、バイクや車に興味があったため、大学は工学部機械工学科出身です。卒業後は、メカトロニクスの設計の仕事に就いたのですが、景気も悪くなり、卒業論文で担当していた防雪柵のメーカーに転職しました。この頃から、建設部門に携わり、防雪対策検討や雪氷調査、防雪柵の開発、吹雪風洞実験など、土木の世界にどっぷりつかりました。

技術士を取得を目指したのは、縁あって現在の仕事に就いてからで、公益に資する仕事のため、より幅広い知識、応用力を身につけたいと考えたからです。また、会社を代表して研究開発を行う立場にあるため、信頼をより高いものにしたいとの思いからです。技術士取得の過程においては、建設部門の道路について猛勉強し、多くの知識を得ることができました。資格取得できたのは、多くの方々の支援のおかげです。今後も自己研鑽に努め、高度な知識、技術力を身に付けていきたいと考えております。

技術士取得後は、合格祝賀会でお誘い頂いたエンジョイ・サイエンス研究委員会に入会し、社会貢献の過程や会議、宴席にて分野や横断的な関わり、年代を超えた多くの先輩技術士の方々との交流機会を得て、志の高さとユニークな感じのギャップ、仕事への情熱など大きな刺激を受け、楽しく学び、日々精進させて頂いております。

今後は、これまで蓄積してきた道路ストックを守り、必要なサービスレベルを確保していく必要があります。少ない予算で高いサービスレベルを維持するために ICT や ITS を活用し、道路管理の高度化・効率化について積極的に取り組んでいきたいと考えております。皆様のご指導を頂ければ幸いです。

大廣 智則 (おおひろ ともりのり)

●建設部門(道路)

勤務先

株式会社ネクスコ・エンジニアリング北海道 テクノセンター



→次号は、森脇豊一さん(建設部門)

私は室蘭で生まれ育ち、高校卒業後、札幌に出てきました。大学時代は真面目な学生とは言えませんでした。山登りを4年間続けたおかげで、顧問をされておりました教授の口利きもあり無事卒業、さらに就職も紹介して頂き、コンサルの世界へと足を踏み入れました。そんな落ちこぼれの私が、技術士を取得しようとするまでには、幾つかの気持ちの変化がありました。

初めは、国土交通省へ出向した時のことです。私が受け持った工事のゼネコン担当者が技術士でしかも私と同い年です。当時まだ技術士補も持っていなかった私にとっては、知識+資格の差を見せつけられ劣等感を感じました。次の変化は、業務で合同会議に参加した時です。管理技術者はもちろんのこと担当者も全て技術士という会社は少なくありません。肩書きだけでなく、話される内容も簡潔で分かり易く理路整然としており、劣等感が憧れへと変化したのを覚えております。締めが第130号のエンジニアパークに登場された上山試錐の高橋さんとお話をさせていただいたことです。寄稿文中(P49参照)にもありましたが、私は間違いなく感動させられた技術者の一人です。この出会いにより触発され、結果、技術士と診断士を取得することが出来ました。この場を借りましてお礼申し上げます。

全ての人が向上心だけで資格取得には向かう訳ではありません。私のように劣等感から始まり、先輩技術士の話に刺激を受け奮起する人間も多いと思います。私はまだ刺激を受けるばかりで、周りの人間に与えられるものはありませんが、今後少しずつ経験を重ね、一緒に仕事をさせていただく人たちに何かを感じてもらえる人間になれるよう努力をしなければと思うこの頃です。

長谷川 直久 (はせがわ なおひさ)

●建設部門(道路)

勤務先

和光技研株式会社 道路・構造課
n.hasegawa@wako-giken.co.jp



→次号は、香川 誠さん(建設部門)